



## 「家庭的」であること

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝日東小の子 ～



校長 齊藤 敦史

G.Wが終わり、本格的に教育活動が再開されると共に、学校では、1学期最大のイベント「運動会」に向けた練習が加速しております。天気予報からは、台風や梅雨入りといった言葉も聞こえてきますが、今月は強い日差しと高い気温の日も多く、冷房環境の確保や水分補給の徹底など、熱中症予防をはじめ、子どもたちの健康管理のために、できる限りの策を講じております。そのような中、朝東っ子の皆さんも、運動会に向けて、毎日充実の日々を過ごしております。

先日、地区連合町会婦人部の皆様(以下、**たたらガールズ**)をお呼びして、全校種目『たたら踊り』のご指導を頂戴しました。1年生の皆さんにとっては初めてのことでしたが、踊り始めるや否や2年生以上の人たちは「あっ、今年も一緒にやるんだ～！」や「オレ、この部分の踊りは覚えている！」「一緒に踊ると楽しいね！」と素敵な言葉が続々と出てくるなど、朝東っ子自身が、地域の方々とのふれあいを心から楽しんでいるようで、とても微笑ましい光景でした。

日頃から地域の方々との繋がりを大切にしている本校ではありますが、**学校の先生**でもなければ(ご家庭の)親御さんでもない、**新たな立場の大人**と関わる経験は、子どもたちの健やかな成長に不可欠です。子どもたちは、**たたらガールズ**の皆様と関わることで、**地域の大人**からの愛情を享受し、安心安全な環境の中で自己肯定感を育み、運動会に向けた**自信と期待**を高めたことと思います。

このような、様々な立場、多くの方々が一体となって(子どもを育てるという)同じ目的の下に取り組む手法を『**家庭的(であること)**』と称した方がおります。児童心理治療における第一人者で、全国的にも有名な「**こどもの心のケアハウス 嵐山学園**」の園長である**早川 洋 医師**です。早川先生は、虐待等で心に傷を負った子どもたちを嵐山学園に招き、様々な職種、多くの大人と意図的に関わらせ、家庭同様の養育環境を整え、愛情を注いで育てる(治療する)ことで、傷を癒すと共に**心理的安定**と確かな**愛着**が**再構築**され、人生に**自信と期待**を持たせる、そんな治療を行っておられます。以前、早川先生は「見捨てない。困っている時に助ける。できた時に褒める。これらの継続が信頼関係と情緒的安定を築き、逞しい人間へと生まれ変わる」と仰っておりました。本校でも、重点目標である「**誰一人取り残さない教育の実現**」に向けて、**教科担任制**を効果的に展開し、職員一同『**家庭的であること**』を徹底してまいりたいと考えております。

なお、嵐山学園の早川先生ですが、来月、本校に来てご講演・ご指導をいただく予定です。早川先生が唱える「**愛着形成の重要性**」や「**家庭的な場の提供**」、「**安心な場が、自信や希望、自己肯定感を育む**」ことの意味や手法をご教授いただき、本校の子どもたちに還元してまいりたいと考えております。

とはいえ、いよいよ明日は運動会です。連休明けから始まった練習も今日で最後。明日、その成果を披露する場がやってまいります。自分なりの目標を持ち、当日も「**全力**」で臨んでほしいと願います。我々職員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしておりますと共に、朝東っ子皆の、運動会での活躍を願い、我々も一致団結、「**全力**」で支援してまいります。

ご家庭や地域の皆様におかれましては、「**学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ朝東っ子** (つまり、皆で**家庭的**に関わること)」の思いを共有していただき、来月も引き続き、本校教育活動へのご理解・ご支援を、どうぞよろしく願いいたします。